

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472100375
法人名	有限会社 恵敬グループホーム
事業所名	有限会社 恵敬グループホーム
所在地 (電話番号)	いなべ市北勢町垣内482-2 (電話) 0594-72-3733
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 1 月 25 日(金)

【情報提供票より】(H19年12月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無 居室等の修繕が必要な場合	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2		3 名		
要介護3	1 名	要介護4		2 名		
要介護5	名	要支援2		名		
年齢	平均	81 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いなべ総合病院 桑原医院 とまと歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

藤原岳の麓の集落に位置し、最寄り駅から近い民家増改築型の事業所である。住み慣れた住居の趣を残した中に斬新な装飾(居室ドアにディズニーキャラクターのイラスト)や季節感が漂う空間作りが成されており、利用者がゆったりと活力ある生活が営めるように工夫されている。代表(管理者)が入退院と宅老所利用を繰り返す母親に『自分で介護をして行きたい』との思いで開設されており、利用者本位の温かい介護を理念に「自分の親にならどうする?」を基準にした介護が日々実践されている。また、昨秋から看護師資格を持った計画担当者が常勤し、的確な介護計画と利用者の健康管理にきめ細かく携わっており、職員からのスーパーバイザーとしての信頼も厚く、職員一丸となって より質の高い介護が目指されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	各課題点は職員会議やミーティングで検討され、工夫を重ね改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが自己評価に取り組み、それを計画担当者が集約し計画票に仕上げられており、各職員の気付き・意識付けに資されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年6月に第1回が開催されており、施設の理念・開設経過・運営状況等の報告と意見交換が行われている。議事録も整備され、認知症の拠点としての事業所の役割や啓発が地域に発信出来た有意義な会議となっている。事業所では貴重な運営推進会議の次期開催を模索しており、継続的開催の方策が課題として話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に事業所内・外の相談窓口が明記され説明が成されている。事業者は家族の訪問時や電話連絡時、家族会開催時等の家族と接する機会を捉え意向の聴取を行っており、意見を尊重した運営が心掛けられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近くの小学校とは交流も深く、運動会や発表会への招待や敬老訪問等を受けている。また、地域行事への参加や近隣住民からの野菜や花の頂き物をするなど温かい交流が図られている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人々との交流」を開設以来の理念の一つに掲げており、地域に根ざした安心出来る暮らしを支える運営方針が示されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が「自分の親にならどうする？」を基本にゆったりとしたリズムの中で理念に副った介護が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校との交流は深く、運動会や発表会への招待や敬老訪問等を受けている。また地域行事への参加や近隣住民から野菜の頂き物をする等、温かい交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み計画担当者が集約して作成されており、各職員の気付き・意識付けに資されている。また外部評価の課題点も職員会議で検討を重ね、改善・工夫が成されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に地域住民代表・行政職員・家族代表等、出席者9名で第1回会議が開催され、会議の目的・施設紹介・意見交換等が行われている。参加者の意見は貴重な声として記録を整備し施設向上に資されている。	○	第1回開催以降、開催を模索しているが実現していない。メンバーの調整や議題の選定等で苦慮している様子が見受けられるが、堅苦しく考えずに集まれるメンバーで定期的(2ヶ月に1回程度)に気軽に情報交換を行う事でサービス向上に活かされる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会に参加し話し合う機会は持っている。	○	市との独自接触の機会は少ない様子だが、事業所の考えや実情の報告、認知症専門機関としての地域への取り組み等について積極的に話を持ちかけ協働関係を築いて行かれる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員異動は家族訪問時や事業所便りで報告されており、健康状態は電話等で必要に即して連絡を取り合っている。金銭管理も個別出納帳での確に管理され月例報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡時、家族会開催時等に意向の聴取を行い、意見反映を図った運営が心がけられている。重要事項説明書に事業所内・外の相談・苦情窓口が明記されており、ご意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者(代表)がいつでも交代要員としてサポート出来る、ゆとりある勤務体制が組まれており、職員の和を大切にした人事で利用者に安定した支援が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や社協の開催する研修会やグループホーム連絡協議会の研修には順次職員の必要度に応じ参加し、職員会議等で全職員に研修内容の周知が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会の役員として活躍しており、同業者と共にサービス向上に取り組んでいる。	○	県内・外の同業者とのネットワークも広く、熱心にサービス向上への取り組みが行われている現状に加え、近隣のグループホームとの有事の時や共同催事等の協力し合える関係作り・親密な連携体制の構築も一考される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーやケースワーカーと馴染める利用者が良く話し合い、家族・利用者に見学をしてもらい事業所の雰囲気に馴染んでもらった上で入居に到っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は実の母と同じように家族感覚で接しており、利用者の昔話に感銘したり先輩として敬服することも多く、共に支えあって穏やかな生活を営んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の会話の中から意識して、一人ひとりの希望や意向を察するように努めており、それに副った支援が心掛けられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者が職員の意見や家族の意向・主治医の見解を整理しアセスメントに副った、具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に一人ひとりの計画が具体的にモニタリング・課題分析され変更や継続が成されている。変更時には家族とも話し合い同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や入院付き添い・帰宅時の送迎・お墓参り等、要望に合わせた手厚い支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が各利用者の主治医や協力医と連携を深めており、様態に応じた助言や往診を受ける体制が出来ている。また、月2回の歯科衛生士による口腔ケアも行なわれ健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は医師の判断を最優先に対応を決定しているが、職員間では、本人・家族の願望があれば終末期までの介護も厭わない心意気はある。	○	開設以来、終末期介護の経験はないが、看護師の資格を持ったケアマネジャーも常勤しており、協力医の随時往診も可能で、終末期までの介護も考えられている。実際に直面した時のために早期に事業所の対応指針を定め、家族への説明と意思確認を図られる事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にした言葉使いや声掛けを重視した支援が実践されており、個人情報の取り扱いについても全職員に厳重に注意するよう徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所での1日の流れは利用者の行動パターンから決まってきたり、それに拘ること無く自由な生活を尊重しており、各自のペースに寄り添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入から調理まで職員が行っており、利用者は買い物や配膳・後片付け等、出来る事・出来そうなことを職員の上手なサポートで行っている。 食事は利用者の間に職員が座り、一緒に会話を楽しみながら食しており、和気藹々とした雰囲気が感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日入浴を基本に午前中から準備され、希望の時間に様態に添った入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来る事・得意な事等を十分理解しており、それを活かした楽しみ事や出番を発揮してもらっている。一人ひとりの得意分野を讃えることで利用者に自信や喜びを感じてもらえる介護が心掛けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は散歩が日課になっており、食材の買出しにも日常的に出かけている。また全員揃っての外食も利用者の楽しみになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルが分かり易く掲示されており、年2回の避難訓練も実施されている。また、近隣の協力体制も出来ており、災害用備品・食料等の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、栄養士に依頼したメニューを基に、利用者の希望や季節の食材・果物を取り入れたバランスの良い献立が提供されている。個々の摂取量は日々記録されており、水分も十分摂取されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家増改築型事業所で、増築部分に使い勝手の良い風呂やトイレが配置され、日当たりの良い渡り廊下にはソファが置かれゆったりと時を過ごす空間作りが成されている。また各居室ドアにはディズニーのキャラクターが楽しく描かれており、季節感漂う装飾と共に活力を感じる共用空間作りが工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物品が持ち込まれ、思い思いの居室作りがなされている。		